

正弦定理

講師

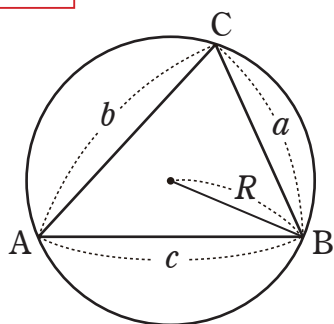
湯浅 弘一

1 正弦定理

正弦とは \sin のこと。

この回では、この $\sin\theta$ を用いた定理を学びます。

正弦定理



$$\frac{a}{\sin A} = \frac{b}{\sin B} = \frac{c}{\sin C} = 2R$$

(R は $\triangle ABC$ の外接円の半径)

☆☆☆ ここで注意 ☆☆☆

$\triangle ABC$ の $\angle A$ の対辺の長さを $BC = a$ と表し、 $\angle B$ の対辺の長さを $CA = b$ と表し、 $\angle C$ の対辺の長さを $AB = c$ と表します。

この定理の特徴を見ていきましょう。

特徴 1

分母は $\angle A$ に関する \sin の値、分子は $\angle A$ の対辺の長さを表しています。

つまり、対角と対辺の関係式になっています。それが $\angle A$ 、 $\angle B$ 、 $\angle C$ の順に書かれています。

特徴 2

三角形の外接円の半径 R を求めることができます。ちなみに $2R$ は外接円の直径です。

特徴 3

分数が 3 つ並んでいます。分数は分子の比と分母の比を並べると等しくなります。

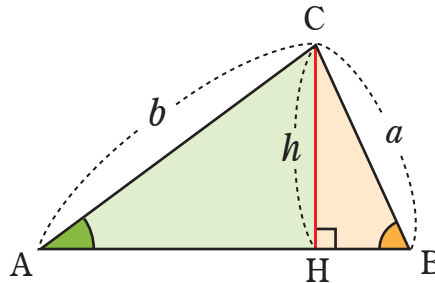
このような特徴から、正弦定理を使うのは主に、以下のようなときです。

- ① 与えられた三角形の対角と対辺の関係がわかるとき
- ② 三角形の外接円の半径を求めたいとき
- ③ 三角形の辺の長さの比やサインの比を求めたいとき

2 正弦定理の証明

正弦定理が成り立つことを証明します。

まず、頂点 C から対辺 AB に垂線 CH をおろし、これを h と表します。



$\triangle AHC$ において

$$\sin A = \frac{h}{b}$$

$$h = b \sin A$$

同じように、 $\triangle BCH$ においても、

$$h = a \sin B$$

となるので、

$$b \sin A = a \sin B$$

$$\frac{\cancel{b \sin A}}{\cancel{\sin A} \cdot \sin B} = \frac{\cancel{a \sin B}}{\cancel{\sin B} \cdot \sin A}$$

$$\frac{b}{\sin B} = \frac{a}{\sin A}$$

同様にして頂点 B から対辺 AC に垂線をおろして考えると、

$$\frac{a}{\sin A} = \frac{c}{\sin C}$$

となることがわかります。

よって、

$$\frac{a}{\sin A} = \frac{b}{\sin B} = \frac{c}{\sin C}$$

が導かれました。

このページ掲載の文章・画像の無断転載及び商用利用を固く禁じます。

続いて、外接円の半径 R との関係を見ていきましょう。

頂点 A を BA がこの円の直径になるように動かした点を A' とします。

すると円周角の定理により、直径に対する円周角 C は 90° 。

つまり、 $\triangle A'BC$ は直角三角形になります。

$\triangle A'BC$ に注目すると、

$$\sin A' = \frac{a}{2R}$$

$\angle A$ と $\angle A'$ は、同じ弧に対する円周角なので、大きさが等しくなります。

よって

$$\sin A = \sin A' = \frac{a}{2R}$$

となるので

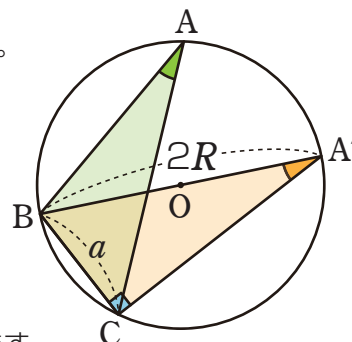
$$\frac{a}{\sin A} = 2R$$

$\angle B$ 、 $\angle C$ についても同様に考えると

$$\frac{b}{\sin B} = 2R, \quad \frac{c}{\sin C} = 2R$$

となります。

よって正弦定理 $\frac{a}{\sin A} = \frac{b}{\sin B} = \frac{c}{\sin C} = 2R$ が証明されました。

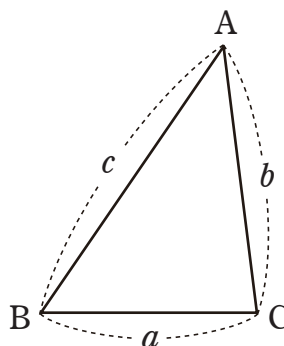


例題

右図の三角形 ABC において、

$$\sin A : \sin B : \sin C = 4 : 5 : 6$$

のとき、3辺の長さ $a : b : c$ を求めなさい。



【解説】

$\sin A : \sin B : \sin C = 4 : 5 : 6$ より、正弦定理を用いると

$$\frac{a}{2R} : \frac{b}{2R} : \frac{c}{2R} = 4 : 5 : 6 \quad (R \text{ は } \triangle ABC \text{ の外接円の半径})$$

つまり、

$$a : b : c = 4 : 5 : 6$$

と求められます。

やってみよう!

$\triangle ABC$ において $\sin A : \sin B : \sin C = 5 : 6 : 7$ であるとき、
3 辺の長さの比 $BC : CA : AB$ を求めなさい。

【答え】

正弦定理を用いると、

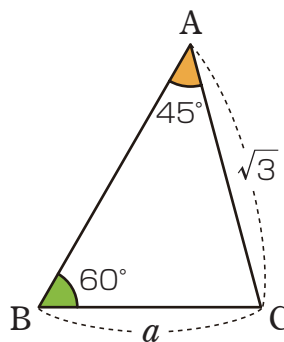
$$BC : CA : AB = a : b : c = \sin A : \sin B : \sin C = 5 : 6 : 7$$

と求められます。

3 正弦定理の使い方

例題

右図の三角形において、 a の値を求めなさい。



【解説】

$\triangle ABC$ の $\angle B$ の対辺の長さが $\sqrt{3}$ のとき、 $\angle A$ の対辺の長さ a を求めたいので、
正弦定理が使えるそうです。

そこで・・・

$\triangle ABC$ において正弦定理から

$$\frac{a}{\sin 45^\circ} = \frac{\sqrt{3}}{\sin 60^\circ}$$

が成り立ちます。

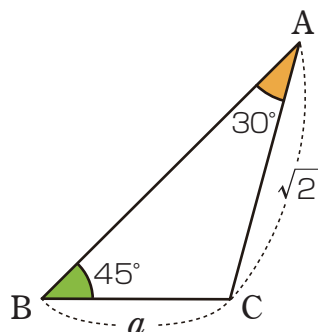
両辺に $\sin 45^\circ$ をかけて

$$a = \frac{\sqrt{3}}{\sin 60^\circ} \times \sin 45^\circ = \frac{\sqrt{3}}{\left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right)} \times \frac{\sqrt{2}}{2} = 2 \times \frac{\sqrt{2}}{2} = \sqrt{2}$$

と求められます。

やってみよう!

右図の三角形において、 a の値を求めなさい。



【答え】

△ABC において正弦定理から


$$\frac{a}{\sin 30^\circ} = \frac{\sqrt{2}}{\sin 45^\circ}$$

が成り立ちます。

両辺に $\sin 30^\circ$ をかけて

$$a = \frac{\sqrt{2}}{\sin 45^\circ} \times \sin 30^\circ = \frac{\sqrt{2}}{\left(\frac{\sqrt{2}}{2}\right)} \times \frac{1}{2} = 2 \times \frac{1}{2} = 1$$

と求められます。

やってみよう! 

$\triangle ABC$ において $a = \sqrt{2}$, $\angle A = 45^\circ$, $\angle B = 60^\circ$ のとき, b と外接円の半径 R を求めなさい。

【答え】

正弦定理から

$$\frac{\sqrt{2}}{\sin 45^\circ} = \frac{b}{\sin 60^\circ} = 2R \quad \dots \textcircled{1}$$

$$\textcircled{1}\text{の左辺の} \frac{\sqrt{2}}{\sin 45^\circ} = \frac{\sqrt{2}}{\left(\frac{\sqrt{2}}{2}\right)} = \frac{\sqrt{2} \times 2}{\left(\frac{\sqrt{2}}{2}\right) \times 2} = \frac{2\sqrt{2}}{\sqrt{2}} = 2$$

ですから, $\textcircled{1}$ の式は

$$2 = \frac{b}{\sin 60^\circ} = 2R$$

$$\text{次に, } 2 = \frac{b}{\sin 60^\circ} \text{ から, } b = 2 \sin 60^\circ = 2 \times \frac{\sqrt{3}}{2} = \sqrt{3}$$

また, $2 = 2R$ から, $R = 1$ と求められます。
